

三國志の愉しみ

土屋 博

コロナ期間中、時間的余裕有りければ、従来より蒐集したる「三國志」關聯のビデオ幾つかを纏めて鑑賞する機会を得たり。永年果たさざる夢、茲にやうやく叶ひたるは喜ばしき哉。

副次的効果として、中國の風土・歴史に慣れ親しみを覚え、中國人の物の考へ方を知らず識らず理解出來たる心地ぞする。

(一) テレビドラマ「三國志 スリー・キングダムズ」

二〇一〇年の作品。總制作費二十五億圓、製作期間六年の謳ひ文句あり。畫像美しく、俳優も非常に上手く、「三國志演義」(十四世紀羅貫中の作)の忠實なるビデオ作品として廣く推奨す。日本語吹替版。

小生の有するは、かつて毎月發賣の形式を以て頒布せられたる講談社版のDVDブックなれば、附録の三國志講座ビデオ、紀行ビデオ、人物ファイル、吉川英治特製本も含み、至れり盡せりの構成なり。(全九十五話、各篇四十五分)

(二) テレビドラマ「三國志 完全版」

一九九四年の作品。昔の日本の「赤銅鈴之介」など少年向けドラマを髣髴せるレトロなる秀圍氣あり。分り易く子供にも理解可能。出演者十萬人、馬十萬頭。但し日本語吹替版に非ずして日本語字幕版なれば、畫面より暫し目を離さば、話を追ふ能はざる憾みあり。(全八十四話、各篇四十五分)

抜萃版として「三國無雙傳」といふDVDボックス(七時間二十分)もあり、ボーナスとして守屋洋氏の孫子の兵法解説も有り、重寶してゐる。

(三) 映畫「レッドクリフ パートI及びII」
ブルーレイ二枚。周瑜にトニー・レオン、諸葛孔明に金城武、小喬にリン・チーリン、中村獅童も脇役として参加す。言はずと知れたる大ヒット映畫作品なり。
公開はパートI二〇〇八年、パートII二〇〇九年。

特に迫力満點の赤壁の戦ひの場面は白眉といふべし。(四時間五十一分)

(四) テレビドラマ「三國志 シークレット・オブ・スリー・キングダムズ」

二〇一八年の作品。美男美女が織りなす権謀術數の人間繪卷との觸れ込みにて、漢王朝最後の皇帝獻帝は雙子との斬新なる設定なり。テレビ放送録畫。

(全五十四話、各篇四十五分)

(五) NHK DVD「漢詩紀行百選」全十巻のうち、

「第八巻 酒に對しまさに歌ふべし 三國志のうた」

NHKエンタープライズ發行。石川忠久監修。

収録せられたるは、曹操の「短歌行」、蘇東坡の赤壁賦、杜牧の赤壁、曹植の「七步詩」、劉禹錫の「石頭城」・「烏衣巷」、杜甫の「登樓」・「蜀相」など。

以下、關聯書籍一覽；

(六) 「通俗三國志 上下」

(早稻田大學出版部、明治四十四年刊、五〇七頁+四九六頁)

今は亡き岡崎久彦大使の若き日の愛讀書として知らるる「通俗二十一史」全十二巻のうち
の第四巻及び第五巻。

元祿二年（二六八九年）より元祿五年に亙りて逐次發行せられたる原本による。湖南文山（義轍）撰。

（七）「新譯 演義三國志 上下」羅貫中原著、久保天隨譯補

（至誠堂、明治四十五年刊、各正價金壹圓貳拾錢、一〇二〇頁十九七九頁）

新譯漢文叢書の拾二編及び拾三編。ポケットサイズ、天金。

第一回冒頭部分、「つらつら天下の大勢を考ふるに、分ること久しければ又必ず合し、合すること久しければやがて必ず分るゝが常なり。」と。

（八）「中國古典文學大系 三國志演義 上下」羅貫中作、立間祥介譯

（平凡社、昭和四十三年刊、定價上卷千五百圓、下卷千四百圓、五四八頁十五一九頁）

第四十八回曹操詩を賦すの場面、「わしはこの槩をもつて黃巾を破り、呂布を擒とし、袁術を滅ぼし、袁紹を平らげ、塞北深く突き入り、遼東を従へるなど、天下を縦横に馳せめぐつて參つた。大丈夫と生まれて本懐これに過ぎるものはない。今宵この見事な眺めに接して、感興また一入じや。歌を作つた故、そなた達も和してくれい。

酒に對し當に歌ふ 人生そも幾何ぞ 譬へば朝露の如 去りにし日苦だ多し 慨して當にもつて慷すべし 憂思の忘れ難ければ 何かもつて憂ひを解かん 惟 杜康あるのみ」と。

（九）「講談社版世界名作全集二七 三國志物語」野村愛正著、原作羅漢中

（大日本雄辯會講談社、昭和二十七年刊、定價貳百圓、三三八頁）

函入。著者野村愛正は明治二十四年生れ、昭和四十九年歿。野間清治に見出され少年少女向け作品に筆を振ふ。本書は昭和十五年版原著の復刻なり。野村愛正、序に曰く、「少年

の頃私は通俗三國志を読み、長坂坡で趙雲が幼主を救ひ出すくだりに胸を躍らせ諸葛孔明の死に涙を流せり」と。

(十)「三國志物語」野村愛正著

(クレスト社、平成五年刊、定價千八百圓、三三四頁)

本書は昭和二十一年全面改訂版の復刻なり。「幻の名著ここに甦る」といふ帯の文句あり。谷澤永一氏序に曰く、「子供の頃讀みたる本のうち何が一番面白かつたかと問はるれば『三國志、それも野村愛正の』と即座に答ふるのみ」と。渡部昇一氏曰く、「野村愛正の三國志物語は少年時代に私のために知的視野を一舉に広げてくれた本なり。それで漢和辭典を引くことを覚え、塚本哲三の本を買つて漢文獨習を始め、唐詩選の詩趣も分る様になつた氣もせり。三國志物語こそ私の知的生活の出發點なり。」と。

(十一)「三國志・人間通になるための極意書に學ぶ」谷澤永一・渡部昇一共著

(致知出版社、平成十四年刊、定價千五百圓十税、二五三頁)

渡部昇一氏曰く、「松下幸之助氏の薦めてゐたる講談本(通俗三國志)は人間通のヒントの寶の山なり。」と。今は鬼籍に入られたる渡部・谷澤兩者の對談は教へらるること多々あり、今や實に貴重なり。

(十二)「漢詩紀行 全五冊」石川忠久監修

(NHK出版、平成六年刊、セット價格四千八百三拾五圓十税)

全五冊函入。第三卷は、「三國志の世界を行く」の副題ありて、目次は、(一)三國志と詩人たち、(二)人の世は夢の如し(赤壁 英雄達の戦ひ)、(三)流轉して常のところなし(漂泊の王侯詩人曹植)、(四)遙かに思ふ老臣の心(杜甫 孔明を歌ふ)。

曹植「七步詩」は、「豆を煮るに豆がらを燃やす、豆は釜の中に在りて泣く、本是れ根を同じくして生ぜしに、相煎ること何ぞ太だ急なる」。

(十三)「三國志談義」安野光雅・半藤一利共著

(文春文庫、二〇一五年刊、定價七五〇圓十税、二五五頁)

對談は二〇〇九年に行はれ、原著も同年に平凡社より刊行せらる。安野の「繪本 三國志」の出版を記念しての企畫の由。

安野は二〇〇四年より七年までに中國取材旅行を四度も舉行せり。

安野光雅(一九二六年生れ、二〇二〇年十二月歿)、半藤一利(一九三〇年生れ、二〇二一年一月歿)、兩人とも今や鬼籍の人となりたるは哀し。

三國志に登場する英雄たちに對する二人の評価は、以下の如し。

曹操六九點、關羽六四點、趙雲五九點、孫權五八點、劉備五七點、袁紹四五點、張飛四五點。

(令和三年八月六日受附)